

## 宮澤賢治の外国語翻訳書と 主題別書誌データベース

山本史香

私は、去年の1月から本学図書館で働き始め、4月にはアジア関係図書館へと配属されました。そこには、アジア関係の洋書や和書を中心とした図書や雑誌が所蔵されており、在学生の方は勿論、留学生の方も多く利用しています。

図書の中には、日本について書かれた洋書や外国語に翻訳された日本の文学作品があり、それらは「ニッポナリア（西洋言語による日本研究書）・コレクション」と呼ばれています。私は世界でどれくらい日本の作品が知られているのか、関心を持っていました。

そのような中、私が大学時代に研究したことのある宮澤賢治の外国語翻訳作品のデータベースを作ることになり、彼の作品が海外でどれだけ読まれているかを調べることになりました。

宮澤賢治は、近・現代の著名な作家の一人であり、多くの詩や童話を残していますが、彼が生前に発表した作品はごくわずかであり、現在知られている作品は死後発表されたものが殆どです。

外国語に翻訳された作品が本学図書館にどれほどあるか調べると、フランス語や英語など様々な言語の版があり、彼の作品は海外でも相当知られているのだと感心し、宮澤自身も自分の作品が後世まで伝えられ、海外でも読まれることは思いもよらなかっただろうと思いました。また、『銀河鉄道の夜』の英語版のタイトルにおいても、“The night of the Milky Way Train”と訳されているものもあれば、“Night train to the stars”と訳されているものもあり、外国語での翻訳も訳者によって少しずつ異なっていることを興味深く感じました。

調べていく中で、フランス語やドイツ語など、日本文学を専攻していた私にとってあまり馴染みのない言語にも触れることが多く、これらの言語でどの作品を示しているのかを照らし合わせることは大変でした。しかし、この図書館での仕事を始めなければ、日本人の作品がどれだ

け世界中に知られているか興味を持つことが出来なかったと思います。

また、宮澤賢治だけでなく、日本には国内で評価の高い作家が数多くいます。データベースを作成していく中で、他の日本人の作品は世界でどの程度読まれているのか益々興味を持つようになり、また新たに彼らを対象にしたデータベースの作成に取り組んでいきたくなりました。

日本の文学作品が世界中で読まれているのは、作品を読んだ人たちが、その歴史や文化を背景にした感性の素晴らしさを他国に広めようと翻訳を進めているからであり、本学図書館もそれらの作品を収集し、蓄積し、さらに提供・発信することで、日本人の作品が世界中に知られているということを教える活動を行っています。



主題別書誌データベース「洋書になった宮澤賢治の作品」

その一つが図書館ホームページの主題別書誌データベースです。館内に限らず、外部からも気軽に閲覧できるようになっており、見たいテーマを選ぶだけで、蔵書検索で入力する手間を無くし、簡単に図書を探し出せるようになっています。これらの内容は『源氏物語』など日本の文学作品だけでなく、映画や環境問題など、様々なジャンルのデータベースがあります。今回私が作ったデータベースもこれらと一緒に公開され、データが利用者の目に触れ、少しでも役に立つことは喜ばしく、やり甲斐を感じます。

世界に広がる日本人の作品を知ることは、私たち日本人が自国の歴史と文化の素晴らしさに気付かされ、大きな誇りになります。日本の文学作品の国際化についてよく知らない方も、本学のデータベースから実際にその作品に触れていただけるよう、私は少しでも力になりたいと思っています。

やまもと ふみか（司書・非常勤図書館員）